

平成28年度 第2回 熊本市子ども・子育て会議及び

熊本市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

日時：平成29年3月29日（水）9時00分から

場所：熊本市役所 議会棟2F 予算決算委員会室

出席委員：委員10名

伊藤委員、齊藤委員、重岡委員、米澤委員、津地委員、浦田委員、吉村委員、後藤委員、
上村委員、一門部委員（審査部会長）

欠席委員：委員1名

徳富委員

次第

議事

- (1) 児童福祉に係る平成28年度主要事業の実施状況及び
平成29年度の事業計画報告 (資料1)
- (2) 児童福祉専門分科会審査部会審議結果報告 (資料2)
- (3) 児童福祉専門分科会児童福祉施設等の整備並びに
社会福祉法人及び児童福祉施設等の認可に関する審査部会審議結果報告 (資料3)
- (4) 子どもの生活等実態調査の実施について (資料4)
- (5) 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの考え方について (資料5)
- (6) 子ども・子育て会議の児童福祉専門分科会への機能統合について (資料6)
- (7) 利用定員にかかる意見聴取 ※非公開

1 開会

- 事務局 子ども未来部長挨拶、欠席委員（徳富委員）の報告、資料説明、議事進行の交代。

2 議事

- 伊藤会長 次第に沿って議事を進める。議題1「児童福祉に係る平成28年度主要事業の実施状況及び平成29年度の事業計画報告」について
- 事務局 資料1について事務局説明。
- 伊藤会長 質疑はあるか。
- 後藤委員 子ども医療費助成費について、来年の1月から拡大されるということで大変好ましいことだが、現行制度と改正後制度の表について、入院と通院が逆になっているのに意図はあるのか。
- 事務局 特に意図はない。
- 後藤委員 制度が複雑化するため今後の見通しと、他の政令市との比較を教えてください。
- 事務局 対象者が広がることに伴う、システムの改修、医師会や薬剤師会との調整、受給者約11万人へのひまわりカードの再交付に時間を要するため、来年1月に実施できるよう準備を進めていく。
他都市との比較では、多くの政令市において、自己負担に差はあるものの対象者は中学3年生まで拡大している。県内周辺市町村も中学3年生までを対象としているところが多く、熊本市は小学3年生までを対象としていることから、まずは中学3年生まで対象者を広げ、義務教育期間中における子育てへの安心感を持ってもらう。
- 後藤委員 他の政令都市と近い制度になったということか。
- 事務局 そうである。
- 米澤委員 幼稚園私学助成事業が実施されていない施設があると団体に問い合わせがあっているが、月末までには処理してもらえるのか。
- 事務局 早急に処理をするよう指示を出す。
- 吉村委員 （震災）子どものこころのケア事業が平成29年度は平成28年度の3倍となっており、引き続き実施予定となっているが、何が増えるのか概要をお尋ねする。

- 津地委員 貧困は子どもに限らず大きな課題であり、調査を開始したことはいいことである。状況が見えない中で、公的支援以外にも、地域的支援も始めているところである。一番の問題は、子どもの貧困が表面化しづらく、実態がつかみ難いことであり、対象者も表面化させたくない状況の中でどうやって支援を届けるのが課題である。公的支援と民間の支援との連携が必要であり、情報共有の方法論を考えていかなければならない。子ども食堂について、すでに運営しているところも増えているが、本当に必要などころへ支援を届けられていないという現状であるため、今後、本格的に取り組んでいくのであれば、民間の支援との情報共有の方法論を考えてほしい。
- 事務局 現状として貧困問題が表面化しづらいと認識しており、支援のかけ方が難しいと感じているところである。調査は実態の把握であるので、その先の対策を考えなければならない。地域と連携して支援していく中で、情報共有の範囲は難しいところではあるものの、情報共有を解決方法のひとつとし、貧困問題への対策を進めていく。
- 吉村委員 学校経由のアンケートはどのように回収するのか。
- 事務局 対象の学校を抽出して学校で配布・回収をお願いしたい。教育委員会とも調整中であり、課題について検討していきたい。
- 伊藤会長 アンケートの回収方法にしても情報管理等に配慮した方法を検討してほしい。
アンケートの実施自体は重要であり、アンケート結果の効果的な貧困問題対策への活用を、仮説の段階から検討してほしい。先行した自治体を参考に、財政的な課題もあるだろうが、潜在的需要に対しても応えていくものとなるよう前向きな検討をしてほしい。
- 伊藤会長 続いて議題5「子ども・子育て支援事業の中間見直しの考え方について」について。
- 事務局 資料5について事務局説明。
- 伊藤会長 計画と実績値に10%以上の乖離があったということは、見通しが甘かったといえる。国も当初から見直しを前提としているので規定路線ということであるが、不十分だったところを補っていくようお願いしたい。
質疑はあるか。
- 重岡委員 見直し作業は、4月から6月にかけてとなっているが、子ども・子育て会議にはいつごろ提出されるのか。また、次年度以降の政策にどう反映させられるのか見通しを提示してほしい。
- 事務局 夏以降と考えている。

- 重岡委員 次年度の政策に反映させてほしい。他の事業とも関連性が高いので、できるだけ速やかにお願いしたい。
- 伊藤会長 続いて議題6「子ども・子育て会議の児童福祉専門分科会への機能統合について」について。
- 事務局 資料6について説明。
- 伊藤会長 質疑はあるか。

(質疑なし)

※以降、「利用定員に関する意見聴取」部分は非公開

- 伊藤会長 以上で本日の議事を終了する。
- 事務局 退任委員（齊藤委員、徳富委員、米澤委員）へのお礼。

3 閉会

- 事務局 これをもって第2回熊本市子ども・子育て会議及び熊本市社会福祉審議会児童福祉専門分科会を終了する。